洛友會報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164

阪神大震災により被災された洛友会会員の方々に、心からお見舞い申し上げます。

阪神大震災のお見舞い 思いを寄せる

会長　大谷泰之

(1)洛友会会員の被災された皆様へ

去る1月17日午前5時46分に、兵庫県南部を直撃した巨大地震に被災された会員及びご家族関係の皆様方に対しまして、心からのお見舞いを申し上げます。この上はくれぐれもご健康に留意され、一日も早く復興されます様お祈り申し上げます。尚(なお)また2ヶ月後の現在までに判明している唯一(ゆいつ)の犠牲者である北村芳雄氏(昭10卒、芦屋市在住)(別稿③参照)に対しまして謹んでお悼み申し上げます。

身土不二

東京支部長　近藤貞吉(昭28新卒)

「お元気そうですね。健康維持について何かやっておられます?」こんな会話がパーティの場でよく出る挨拶の一つです。「一病息災」の言葉のとおり、病気と仲良く生活するといったことを心がけ、人それぞれに隠れた努力をしているのが私たちの年代の処世術です。先日ある知人から、『いまの食事では早死にする、今村光一監訳』を紹介していただいた。

この本は、1977年アメリカ上院栄養問題特別委員会(当時、マクガバン委院長、以下M委と略記)が発表した5000頁を超える膨大なレポートの要点を抄訳されたものです。M委のレポートは日本も含めた現代先進国の食事の間違いを厳しく指摘するとともに、薬や手術を主体とする現代の医学にも根本的な批判を加え、栄養を重視する医学革命の不可欠なことを説いています。単に、提唱だけに終わることなく、自分自身の努力でより健康になり、病気にならないようにするための食事や栄養の改善の方向を示しています。このように具体的に改善の方向を示していることが、私たちにとって実際の生活をする上でより大きな価値をもっているように思います。

ところでスーパーの食品売り場で、カロリーや、栄養の内容が表示されているのを最近よく見受けます。また、毎日30品種の食物を食べるのがよいとも聞きます。などなど身の回りに栄養に関する情報があふれている割には、健康で豊かな生活を送るためにはどうすればよいのかという具体的な知識がない。このような問題に対して、このM委のレポートは答えてくれるように思います。

現代は栄養面から見て半健康人が多い。

たとえば、ビタミンやミネラルが不足すると〝血が疲れた状態〟を惹き起こすと指摘しています。

カロリーがうんと不足すれば世界の食料難地域で起きているような餓死という状況になります。これに対しビタミンやミネラルも極端に不足すれば、たとえば壊血病とか発育不全といった目に見える形になって現われます。しかし、ビタミンやミネラルの不足は〝血が疲れた状態〟ぐらいだとなかなか目に見えるような形で認識されません。健康水準は大ざっぱに言って、〝悪い〟、〝まあまあ〟、〝良い〟、〝極めて良い〟、の四段階に分けて考えることができますが、余りにも多くの人がこのうちの〝まあまあ〟の状態にあり、それで満足してしまっているというのが現状です。

肝臓では1000以上の酵素がつくられています。これらの酵素がなければ汚れた血はきれいにされないし、失った分の再補給もされません。肝臓では、アミノ酸、ミネラル、ビタミンなどを原料にしてこれらの酵素を作り出しています。これらの栄養素の供給が不十分だとしますとどうなるでしょうか?血液中には軽度の有害物質が残りいろいろな種類の軽い症状に悩まされることになります。体の中のどんな器官も組織も血液中の有害物質の悪影響からは逃げられません。

その結果として、われわれは元気がなくなり、血の疲れた感じになり、頭痛や気持ちの滅入り、消化不良、軽度の痛みなどに見舞われることになります。そしてこれは、はっきりとした病気として形に現れるずっと以前に起きる状態

なのです。

食事の内容的なバランスが悪くなっている

食生活が悪くなるにつれてビタミンやミネラルの不足が起きています。

・先進各国での食生活の変化

脂肪や動物性蛋白質が増え、でんぷん質が減ったのが食事の内容的な変化の特徴であり、日本を含めた先進各国での食生活の変化であります。M委は膨大かつ詳細な資料と多くの専門家を呼んでの審議調査によって、こういう食生活の変化がどのようにしていろいろな病気を起こす原因になっているかを明らかにしました。

要するに1970年代の食事は、健康上から眺めますと、7、80年前の食事に比べバランスを失った悪いものになったといわれています。いわゆる食生活の欧米化といわれる変化であります。植物性の蛋白質が減り、動物性の蛋白質は2倍以上に増えています。一言で言えば農民型の食事から現代の都会人風の食事に変わったと解釈すれば分かりやすいでしょう。

・日本での食生活の変化

アメリカで7、80年の間に起きた変化が、日本では最近の2、30年という短期間に起きています。脂肪も急増したし、砂糖は敗戦直後に比べれば数百倍だし、30年代に比べても、2、3倍に増えています。動物性蛋白質や脂肪が増えれば、大きさに限度のある胃袋にはいるでんぷん質（植物性食品）は減り、これだけでもビタミンやミネラルなど微量栄養素は減少することになります。

化学式農業が食品を劣化させている

・土壌改良

化学肥料や農薬による農業の結果、微量ミネラルが不足し土壌がますます劣化しているといわれています。北海道空知中央地区農業改良普及所では、**土壌改良への種々な取り組みが試みられています。**

空知中央地区の更別村では、土壌活性化研究会を開いており、病気が出たら、すぐ農薬を散布するという対症療法的な対応ではなく、病害虫に強い作物をどう育てるのか、生命にみちあふれた「たべもの」をどう作るのかを研究のテーマに取り組んでおられます。そして、まず自分達が作って見て、食べて、美味しいものを消費者に届けるのにはどうすればよいか。この一連の活動を通して、消費者と生産者との繋がりを図っていきたいというのが研究会の行動コンセプトです。

・施肥を変えたら

施肥を変えたらじゃがいもが断然うまくなり、また、金時豆の例では、煮てもアクが出ず、皮もやらかく、煮崩れがしないといった試験結果があります。さらに、金時豆でいえば、同じ十勝の活性化研究会の仲間の豆を、一般の慣行区のものと中味を比較した結果、その成分に大きな違いがあること、特に、鉄は7倍、亜鉛は3.6倍もの差があったことが報じられています。（別表）

項目			慣行区	活性化研究会
チッソ	(N)	%	3.23	3.72
リン	(P)	%	0.54	0.56
カリ	(K)	%	1.41	1.37
マンガン	(Mn)	ppm	12.62	12.62
カルシウム	(Ca)	ppm	536.03	416.67
マグネシウム	(Mg)	ppm	1711.71	1729.73
鉄	(Fe)	ppm	85.14	608.10
銅	(Cu)	ppm	7.21	17.79
亜鉛	(Zn)	ppm	25.90	93.92
ホウ素	(B)	ppm	32.84	32.75

・身土不二

現代の病気のほとんどは、食の劣化であり、その根源は土壌の劣化であるといわれています（「土といのち」中嶋常允著）。日本は山が多いことに加えて、雨量が多いために土壌中のミネラルが海へ流されてしまいます。その結果どうしても農作物中のミネラルの含有量も必然的に少なくなり、栄養分が欠けてくるという宿命的な問題も関係してきます。

昔のように山の草や河川の草で作った堆肥には、十分な栄養要素が含まれていたのです。しかし、今やそのような堆肥を施している人はほとんどおりません。堆肥によって、土壌から吸い取ったものを土壌へ返すことをしていないため、有用な栄養分に欠けた土壌を生むもとになったといえます。そのような土壌からとれた野菜などを食している人間の身体内において、同様にミネラル不足が指摘されています。

まさに、『身体と土とは二つではない』すなわち、『身土不二』といえます。

京大だより

兵庫県南部大地震について

京大総長　井村裕夫

去る平成7年1月17日早朝、近畿地方を大地震が襲い、阪神地区を中心に甚大な被害が出たことは誠に不幸な出来事であります。被害の状況を知るにつけ、その大きさに胸が痛み、言葉を失う程であります。亡くなられた多くの方々とその御遺族に心から哀悼の意を表しますとともに、被災された方々にお見舞いの言葉を申し上げます。

地震によって京都大学にも被害がありました。現在、調査中ではありますが、学生・教職員の中には亡くなられた方、負傷された方もあり、そのほかご家族を失われた方、住宅に被害を受けられた方などが少なくありません。

地震の後、京都大学からは医療チームの派遣、生活用品の援助、神戸大学医学部附属病院への患者食の送付などを行い、医薬品供与

の計画にも参加しています。また、本学防災研究所と東京大学地震研究所が中心となって56名の専門家からなる調査団が編成され、調査活動を行っています。そのほか様々な団体を通じて、あるいは個人のレベルで、支援活動をされている方もあると思います。

本学では、ささやかではありますが被災者の方々を援助するべく義援金の募集を行っています。被災地にお送りするとともに、一部は本学の被災者へのお見舞いとしたいと考えています。多くの方々の御協力を頂きたくお願い申し上げます。

兵庫県南部地震の残した傷痕は予想外に大きいものがあります。一日も早い復興へ向けての協力の絆を強めて行きたいと思います。

平成6年度の停年退職教官

平成6年度は教授43名、助教授6名、講師1名、助手2名が本年3月31日付で退職された。洛友会関係の教官は次の方です。

星野　聰
大型計算機センター教授。
（昭和29年電気工学科卒）

原子エネルギー研究所所長に

西川褘一（よしかず）教授（昭30卒）

平成7年3月10日、原子エネルギー研究所の次期所長に西川褘一工学部教授（61）（計測制御工学）が選任された。任期は4月1日から一年間。

西川教授は、一九五五年京都大学工学部卒。同助教授を経て七二年から現職。九三年から九五年三月末まで工学部長。

京都大学附属図書館長に

長尾真教授（昭34年卒）

平成7年2月22日、京都大学附属図書館の館長に長尾真工学部教授（58）（有線通信工学）が選任された。任期は4月1日から3年間。

教室だより

教官の移動

次のような異動がありました。

宅間（たくま）　董（ただす）

平成7年3月1日、電力中央研究所より発送配電工学講座教授に就任。
（昭和36年東京大学工学部電気工学科卒）

平成6年度電気系教室卒業生の進学就職状況

電気工学教室主任
昭和41年卒　藤田茂夫
電子工学教室主任
昭和43年卒　石川順三
電気工学第二教室主任
昭和41年卒　荒木光彦

平成6年度の電気系教室卒業生の進学ならびに就職の状況をお知らせ申しあげます。

本年度の卒業生は別表にありますように、学部118名、大学院修士課程86名でした。このうち学部からは、本学修士課程への進学が98名、他大学修士課程への進学が2名、就職が15名でした。また、修士課程からは、本学博士課程への進学が15名、就職が70名でした。

本年度はご存じのように業界の全般的な不況のため、一般的には求人数がかなり減少していたようですが、有難いことに当電気系教室への求人数は依然として多く、応募学生は100パーセント採用していただきました。本年度の特徴は、電気電子関連の業種への就職が例年にもまして圧倒的に多いことであります。これは、不況のため各企業が採用活動を控えられて、色々な業種で電気系卒業生が活躍されているという事実が十分周知

平成7年度洛友会総会通知

一、年月日　平成7年6月3日(土)

一、場　所　東京目黒八芳園
山手線目黒駅下車
TEL 03－3443－3111

一、行　事　受　付　14：00～
東京支部評議員会　14：30～15：20
東京支部総会　15：30～16：30
本部総会　16：40～17：30
懇親会　18：00～19：30

一、会　費　会員　5000円
同伴者　2000円
ただし平成6年3月卒業生以降無料
会費は当日受付にてお支払いください。

なお、これで総会出席通知に代えますので、ご出席の方は5月19日までにご連絡をお願いいたします。本会へはご家族同伴を歓迎しますので、多数お誘い合せの上ご出席ください。

しなかったため、大部分の学生が日頃からなじみの多い企業や研究所へ向かったということではないかと推測しております。

毎年のことではありますが、学生の就職につきましては、洛友会会員諸兄にはいろいろと御高配、御援助をいただきました。教室主任として厚く御礼申し上げますとともに、今後とも宜しくご支援賜りますようお願いいたします。

平成6年度卒業者進学就職状況

平成7年2月28日

種別	修士	学部	進学・就職内定先
卒業予定者数	86	118	
進学	15		京大大学院　博士課程(電気)
		94	京大大学院　修士課程(電気)
		4	同　(応用システム)
		1	東大大学院　修士課程(電気)
		1	北大大学院　修士課程(電気)
官公庁	2	1	特許庁、郵政省
研究所	1	0	日本原子力研究所
電力・ガス	14	1	関西電力、中部電力、九州電力、北陸電力、北海道電力、大阪ガス
通信	8	1	NTT、NTTドコモ、KDD
電気関連メーカー	39	8	日立、東芝、三菱、富士電機、日新電機、松下電器、松下電工、シャープ、三洋電機、三洋半導体タイランド、九州松下電器、日本電気、富士通、沖電気、日本IBM、村田製作所、パイオニア、島津製作所、住友電工、日立電線、キヤノン、日本電装三菱セミコンダクターソフトウェア
鉄道・運輸	3	2	JR西日本、JR東海、JR東日本、阪急電鉄、京阪電鉄
機械・自動車	2	0	三菱重工
化学	1	0	東レ
放送	0	2	フジテレビ、NHK
帰国	0	1	
その他	1	2	未定、医大受験準備、資格取得準備

会員の動向

関西経済連合会副会長に
立石孝雄氏(昭31年卒)内定

関西経済連合会は、3月12日までに、稲盛和夫副会長が退任し、オムロンの立石孝雄会長が京都経済界代表の副会長に就任する人事を内定した。5月29日の定時総会で正式決定する。

稲盛氏は昨年5月の川上哲郎会長の就任時に副会長になった。今年1月、京都商工会議所会頭に就任したため、多忙を理由に退任する意向を表明した。

関経連では稲盛氏の辞意が固いため、後任副会長を京都の経済人から人選し、立石氏を起用。稲盛氏が副会長として担当している関西文化学術研究都市の推進を担うことになった。

立石孝雄氏は京都大学工学部電気工学科卒。昭和31年立石電機(現オムロン)に入社。副社長、社長を経て昭和62年から会長。62歳。愛知県出身。

日本の技術が崩壊する!?
—その2、原因と対応—

副会長　池上文夫(昭22卒)

前回は、日本の先端的基礎研究のみでなく生産を担う中堅技術者の教育にも大きな問題がある現状を述べました。それを纏めて原因を考えてみます。

(1) 専門技術への興味が無い

近頃は、電子工学科に入学する学生が必ずしも電子工学に対する意欲をもたないのが大問題です。その原因は小中学時代からの教育にあります。子供は塾通い、父兄は受験勉強を要求、教師は受験用授業を。これでは、科学への感動も起こりません。そこで、自分の希望よりは偏差値で大学・学科を選ぶことになります。大学教育は、先ずその専門技術に対する興味を喚起するところから始めねばなりません。これは正に、最近問題となっている「理工学離れ」の原因なのです。

(2) 本質を自分で考えない

講義を聴いて、何故そうなるかを考える学生が減り、丸暗記する学生が増えています。受験時代に試験問題を解く方法を覚えるのに一生懸命で、本質を理解しようと自分で考える習慣に欠けています。科学の本質で最も大事な論理的な思考無しでは、大学は消化不良のまま卒業して、新しい技術の創造は愚か、通常の仕事の処理さえも期待できない恐れがあるでしょう。これも受験戦争社会に起因して、「理工学離れ」と関係します。

(3) ブラックボックス化

昔は少年の頃からラジオを組み立てたり、電気と遊ぶ機会に恵まれていました。しかし身の回りにある近頃の電気製品の電気回路はブラックボックスのICで中味が見えません。抵抗やコンデンサを見たこともない学生にとっては、電気回路理論は最も苦手な抽象の世界となります。RやCは現実の抵抗やコンデンサと結びつき難いようです。技術の進歩が皮肉にも教育を困難にする、これは日本に限らず欧米でも悩みの種となっているようです。自然現象と付合う機会が無くテレビゲームに親しむ子供には、対象はすべてブラックボックスになるでしょう。

(4) 明治以来の大学教育

日本の大学は明治初期、一握りのエリートに欧米の学問・技術を吸収させるのが目標でした。その方法は既成の知識を習得するには最も効率的で、ヨーロッパで多くの科学者が200年以上かかって見付けた原理や法則を半年で覚えられます。エリート学生は原理や法則を理解して、いろいろな場合に応用して新しい技術を創ることもでき、欧米と肩を並べるに至りました。その教育法は既成のものを学ぶには適していても、新しい原理や法則を見付ける創造的教育ではなく、日本の基礎研究の足を引っ張ったと言われています。

ましてや戦後の大衆化大学では、考えることの不得手な大衆学生にこの教育法は適しないことが既に実証されたと言えるでしょう。

この現状が今後10年、20年続くと、日本の技術は危機的状態になると危ぶまれます。しかも、これらの問題点は学生だけの責任ではなく、日本の教育制度や社会制度にも原因があり、その解決には大

変な努力と時間を要します。かと言って、最初から諦めて何もしないという訳にはゆきません。現在の大学には改革を必要とする多くの要素があり、出来ることをやる必要があります。中でも重要な一つが教育方法でしょう。

前回にも触れましたが、日本の大学では教授法の研究が余りされていません。いい大学ほど、その傾向が強いと言えましょう。何故ならば、いい大学では下手な授業でも学生はキチンと勉強して理解して呉れるからです。

私が京都大学に勤務した当時、「大学フィルタ論」というお話を木村磐根先生から教わりました。大学はいい学生を入試で選択し、それ自体は増幅しない受動回路のフィルタであると言うものです。多分に自虐的な表現ですが、いい大学では特に教育に気を配らなくても余り困ることは無いのです。問題は中堅技術者を教育養成する大衆化大学にあります。

ここ2～3年、各大学で徐々に問題への対応が始ってきました。カリキュラムの改訂をはじめ自己評価が盛んに行われていますが、教育法の改革について有効な方法は見出し難く、悩みながら模索しているのが現状でしょう。また、「理工学離れ」への対策も全国的に議論されています。先日、金沢工業大学にいる同級生の高月一君から、同じ悩みについての感慨と同君の試みについて詳細な資料を頂きました。

私の勤める拓殖大学電子工学科でも新しい試みを進めています。新入生に電子技術の素晴らしさ、面白さを吹き込み、実物に触れる機会を与え、講義と学生実験とを密接に連携させて理解を助けるという試みです。新築の講義棟にはそのための特別の教室等も備え、模索が始まっています。

洛友会会員で同じ悩みの方々と解決法の情報交換を望むとともに、その他の会員諸兄・諸先輩方にも日本の技術の将来について考えて頂きたいと思うこと切です。

阪神大震災に学び
思いを寄せる

会長　大谷泰之

(2)京都での状況(私の体験)

今回の地震発生時、私は京都市東北部の自宅二階の部屋で、いつもの様に早朝5時過ぎに目覚め、寝床の中でNHKのラジオ放送を耳にしていた。人生読本が始まった頃、遠くから迫ってくる様な凄い地鳴りと共に、一瞬体が浮く様な感じの次に大きい横揺れを感じた。これは大きい地震だと思ったのと同時に部屋の隅の書棚(若干不安定)が倒れ書類が落下する大きい音を耳にした。幸い無事であった私は、ラジオで大きい地震が発生し、震度は兵庫県南部で6、京都で5、大阪で4、震源は淡路島北部等と伝えている位までは覚えているが、これは大変な地震だと夢中で普段着に着替え、漸く階段を降りた時、階下に寝ていた家内も、書棚から細かい書類が落下した中で幸い無事であった。取り敢えず家内と二人で階下と二階の散乱した書類等の片付けをしながら、テレビのスイッチを入れると、例のNHK神戸放送局の地震発生時の大混乱の画面を見た。早速神戸西区に在住する3男、京都西京区に在住する2男の家へ電話をかけ漸く安全を確認出来た。

次に会員名簿を頼りに会員の方々にも電話をかけ安否の確認に掛り始めた。

(3)会員の安否状況について

発生後数日は仲々電話が通じない事が多かったが、被害の大きい被災地在住の親しい友人知人は大体無事な事を確認出来たものの、家の半壊や水道ガス等は復旧せず、中には親戚宅へ避難して居られる方も多い様であった。

先ず洛友会の最長老の芦原義重氏(大13年卒本部顧問、関西電力名誉会長、尼崎市塚口在住)は昭和の初期建てられた鉄骨住宅は無事であり、電話で元気なお声を伺う事が出来た。何でも地震後二、三日して漸く車で大阪の関電本社へ行かれ、送配電設備の復旧状況を調査督促されたとの事であった。

次に森井清二氏(昭24年卒元関西支部長、関電副会長、京都市下京区在住)は庭の石灯篭が倒れた程度であったが、お家族宅が被災され、目下2家族が京都宅へ避難されているとの事であった。尚京都にある関電情報センターでは地震発生時神戸地区で180万KW位電力需要が急低下した事、他電力会社からの大規模な緊急応援を得て配電設備の仮復旧を一週間位で完了したとの事であった。合計2300億円という膨大な損害を被った施設の本格的な復旧にこれから着手するとの事等をその後3月16日に伺った。

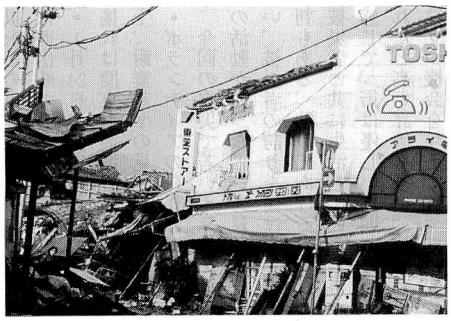
角田寛氏(昭18年卒元関西支部長、京阪電鉄会長、芦屋市在住)も自宅が半壊に近く、一時令息宅へ避難された由、目下自宅の再建を計画中との事であった。

被災地在住者が一番多いと思われる三菱電機社員の会員は勿論、(1万人位の社員も)全員無事であった由、その後片岡高示氏(昭13年卒元副社長、宝塚市在住)から連絡があった。

西宮市在住の仁田工吉氏(昭9卒)には仲々電話が通じなかった処、たまたま倒れたご自宅の片付けに来ておられた3男旦三氏(昭42年卒、京大電気系教室教官)と連絡が出来た。何でも家が全壊し、愛犬と共に3男宅へその後2男昌二氏(昭40修卒岐阜大教官)宅に避難されており、お元気の由伺った。

また最大被災地である神戸東灘区在住の的場俊一氏(昭13年卒元関電から電気評論社再建のため出向、筆者の同期生)とは1月22日に連絡がとれた。何でも家の中は倒れた家具等で片付けようもない位になったが、この地震で却って元気が出て来たとの声が帰って来たのには力強さを覚えた。

前記仁田工吉氏と的場俊一氏にはその後、貴重な震災体験記のご



寄稿をお願い申し上げた処、早速3月上旬に本会の事務局にご送付頂いた事に対し厚くお礼申し上げます。実はお二人の原稿を私が拝見したのは当方の手違いで3月17日であったので、拙稿の仕上げが原稿締切の3月20日に漸く間に合った次第であった。

尚仁田工吉氏のご令息は長男周一氏(昭35年卒、東京農工大)二男昌二氏(昭40年気修、岐阜大)三男旦三氏(昭42年卒京大電気教官)で三人の令息が本会会員である事を茲で付記しておく。別稿(1)の通り仁田さんは今回の震災で九死に一生を得られ、また戦争中にも貴重な体験をされた事を伺う事が出来たが、同氏の冷静沈着なご行動に感嘆している。

また的場俊一氏は電気評論社が昭42年に株式会社として再発足された時、関西電力から常務として出向された方で、今回の地震を東灘区の例の横倒しになった阪神高速道路の近くで体験され、却って元気に家の片付けをしたり周辺を調査して回り人々を激励される等元気に頑張っておられる由何よりであった。

何れにしても寄稿頂いたお二人の会員に心から感謝し今後共元気に頑張って行かれる事を祈っている。

尚本部の矢木原邦雄事務局長宅は甲子園球場の南方の浜甲子園にあり、幸い無事であったが、交通の関係上一週間位たってから応研の事務所へ出勤されるようになった。

(4)洛友会本部役員会中止について

次に例年の通り2月の最初の土曜日(2月4日)京都で役員会を開催する予定であったが近藤文治副会長と打合せた結果、山陽新幹線も新大阪姫路間が不通である等の非常事態を考慮して、役員会の開催を中止し書類をお送りして賛否や意見をお伺いする等の持回り審議をお願いする事にした。その内容は例年通り事業報告や計画及び会計決算や予算、会員名簿の発刊その他役員改選等を中心とするものである。何れ来る6月3日(土)東京支部総会と共催する本部総会でご審議頂くことにしたい。

尚ここで特に付記したい事は洛友△会からこの度、講習所創立80周年を記念して金100万円の本部への寄附があった事で、既に同会の神戸俊夫幹事長から筆者が事務局で受取ったが、取り敢えず別枠として有意義に活用させて頂くべく検討中である。

尚役員改選に際して私は相変らず腰痛その他体調が優れず、本年82才という年令を考え、会長を辞任致し度考えていたが、もう一期だけと言う要請に従うことにした事も付記させておく。

(5)阪神大震災に際しての報道日記

さて阪神大震災については地元の各種新聞や特集雑誌に詳記されているので、今更ら重ねて述べるのを取り止め、毎日余りにも心痛む記事や写真の傍らに書かれている大文字の見出し等、取材した記事を日を追って日記風に時には涙を共に略記する事にする。

1月17～19日・痛々しくも神戸の街燃える。明日は我が身の思いあり、町家と路地の織りなす京都。

・都市直下形と一言で言えばそうだが、被害の模様は100万言でも足らず、救援の緊急性も同様。

・緊急車も通れぬ、マイカーによる渋滞を度々聞く、車社会にも明暗あり、大地震でその暗部を知る。

・こんな避難生活いつまで、家焼失に呆然、生き埋め救出できず、余震増える毎に犠牲者も。

・神戸港機能マヒ、交通動脈分断、流通異変。

・揺れ最大級、神戸は震度7と訂正される。

・帰らぬ人、募る寂しさ、みな下敷き、苦しかったろう、優しいおばあちゃんだった、生きていても悲しいことばかり。

・85才97才の老人、33時間振りに生還(西宮、芦屋にて)

・漸く本格化した近隣府県や自衛隊の救援活動、給水車、医療班、被災者に届けよせめてもの善意。

・ガレキの下からの救出も相次ぐ、行方不明者多数、頑張れ救いを待つ人、捜索に当る人、ワンちゃんも頑張ったガレキの下から44日間。

・西宮消防署、大火の長田区の2倍近い31件の火事発生、しかし消失面積は1／60、昨年の渇水対策として防火水槽河川等の水利の効果。

・古い木造家屋高令者襲う、死者の事故は60才以上多し。

・停電復旧の職場で母の死乗り越え奔走する関電社員も。

・茲で1月18日の報道の最初の被災状況では、犠牲者1510、行方不明1019、負傷者6334、家屋倒壊7876棟であった。

・京都市の調査で西京区樫原断層上に被害が集中し住宅の破損480戸以上との事、最初の一名の犠牲者は西山崎で発生。

・1月24日建設省の調査で今回の揺れは関東大震災の揺れの2倍以上、耐震基準の見直し必要と。

・ボランティアの在り方。

今回の震災で若いボランティアの活動が光った。一方長続きしない、被災者の誇りを傷ける等の批判もある、助けてあげるのでなく、被災者と共に生活していると言う感じで、街は優しい雰囲気で包まれたと高い評価も多い。被災者に役立つ機会を与えて貰っているという姿勢が大切。

・京大の工学部学生も神戸大学の学生と共に積極的に、そしてカウンセラー精神で各避難所で活動した由。

・ボランティア活動のネットワークを自主的に組織することが大切。

・1月28日外国のメディア(報道)による批判によると、先づ人命救助の遅れはまるで中世の国の様だ、官僚組織の対応のまづさや無能ぶりと行政の悪さをさらけ出した、危機管理の甘さという経済大国日本のアキレスケンが浮き彫りにされた、米国のロス地震では連邦緊急事態管理局が事態発生から3時間以内に医療班を含む720名が出動した由。

・しかし日本人社会の大震災時の落付き、社会秩序の保持、略奪も

ない事に驚嘆された事も却って不思議。

1月30日朝日新聞社説により震災の教訓

・阪神大震災は戦後の日本を走る様な活断層をさらけ出した、日本社会の安普請ぶりも明にした。

・効率主義や縄張り主義、無責任主義、技術信仰など私達に与えたものを再検討する必要がある。

・上からでなく個人が知恵を出し合う形で戦後日本の再点検をしよう。

・3月4日阪神に未来の街づくり、再生へこう思う、こう進むと。

・3月5日神戸、尼崎、宝塚の3市で慰霊祭、遺族7800人新たな出発を誓う、悲しみを超えて生きますと、皇太子夫妻、首相等も参詣、その前には両陛下が被災地慰問激励

・3月17日神戸大学で学生39名、職員2名の遺影を迎えて慰霊祭が行われた。

・神戸大学附近の下宿で3人の学生が逝った。友人たち「助けたかった」「頼むから逃げてくれ」建物に埋まり火災に襲われた学生の声が西塚学長は研究官の世界的に有名な生物学実験資料を震災で亡くした悲しみを越えて遺影にぬかずく、貴い人命を多数失い、痛魂極まりなし、これからは世界的な研究大学にしようと。

・3月11日の被害状況は、死者5490、(内兵庫5459、大阪30、京都1)行方不明2(兵庫)である。

・震災から2ヶ月、避難所生活に疲れが見える。一にも二にも住居をとの声がこちらにも聞えてくる。

・兵庫県内の約800ヶ所の避難所には依然として約7万8000人の避難者が住まいや不安定な仕事、家計の苦しさなどの生活実態が。

・街では再生に向って復旧工事が急ピッチで進められている、でも被災者の心の傷は今も癒えない、その心の復興こそが緊急課題である、子供の復元力も大切にしたい。

・震災2ヶ月復興への春

山陽新幹線の新大阪－姫路間の修復工事がほぼ完了し尼崎市内で東西間のレールが連結された。震災による分断から60日目、大動脈である東海道山陽新幹線は漸く一本に連結された。予想より早く4月中旬には開通する見直しとの事。

・3月17日午前0時8分中部地方を中心とする地震があった。震源地は長野県西部でM5.2(震度は彦根3、京都神戸2)最近北海道釧路沖、伊豆半島の地震あり、気になる。

・2ヶ月後でも先の見通し立たぬ被災地の医療体制、応援チーム撤退後の不安を募らす医師ら。

3月17日阪神大震災から2ヶ月特集号から

・神戸よ、全世界へ発光するのだ、精神的改造も大切。

・ボランティア活動の心得10ヶ条(被災者の痛みを思いやる。よろず相談をする気持で、お年寄りの話し相手になる、自宅に帰るまでボランティアで見物をしない)等々

・立直り模索する企業、活気戻った商店街、自慢の企画力は健在(ファッション)製造業復旧か移転か対応は二分。

・家庭でも出来る地震対策(家具を固定、壁は補強を、わが家の耐震診断(地盤、形、古さ、壁の筋かい外)

・震災体験談(母はすでにお骨になったいた)(壁が落ちて青空が見えた)(阪急伊丹駅で電車が降ってくる)(ボランティアの人達の優しさ)(部屋が傾き体が滑り落ちた)(お父さんドアがあかへん)(息子は二度と目をあけてくれなかった)(傾いたマンションの屋上からロープでおりてきた)(ノコギリが要るの声、埋まった父を救え)(変わり果てた家々、実家はどこ?)

・立ち上がろ神戸の中小企業(仮設工場が52戸)(5800億円を無利子融資)(モノ作りに意欲)(工場用地さがしに奔走)(貯え自前で建てよう)

・京大学生新聞から

(今回の地震で5000人以上の貴重な人命が失われた、「天災」とみるか「人災」とみるか、今回の歴史的地震を従来の視点とは異った視点から見直すような一撃とすることはできないか)(他大学のコラムで東大(価値感が最後に問われる)新潟大学(大地震はいつ起きても不思議ではない)岡山大学(天災に際し自己の内面の世界を見つめる)

・京大学生新聞の主張

(阪神大震災、心の矛盾を再確認、美談ばかりでない避難現場も)

・電気評論誌から

(昨年4月号に「地震に備える」というテーマの特集号を出した。地震のメカニズム、地震は予知できるか、その他の関連記事が掲載されている。近く阪神大震災後の続報的な記事も載せたいと、宇田裕重常務(昭34年卒関西電力から出向、川西市在住)談。

終りに、本号が皆様に届く頃には、既に桜前線も日本列島を北端まで北上しており、また京都鴨川のゆりかもめも北方へ帰ってしまっており、また大学やその他の研究者にとっても春の学会シーズンも終っている頃と思われる。

また阪神大震災の被災地でも、各方面の復旧工事も進み、多くの被災者も避難所から仮設住宅へ移っておられる事を期待している。一方政界でも統一地方選挙が進行している事と思われる。

本稿には阪神大震災に際しての各方面の記事をひろい書きしたが、時間がなかったので、チグハグな内容になったことをお詫びしたい。

最後に会員の皆様のご協力を感謝すると共に今後のご支援をお願い申し上げ、更にご健康とご多幸を祈って擱筆する。

(平成7年3月19日記)

別稿③　応研内洛友会御中

前略、父北村芳雄(芦屋市前田町4－12、大正元年9月15日生、昭和10年卒)はこのたびの震災により1月18日死去しました。長い間いろいろお世話にあづかりありがとうございました。　敬具

〒665宝塚市売布きよしが丘10－9

三男　北村弘幸(眼科医)

阪神大震災に遭って

仁田工吉(昭9卒)

平成7年1月17日早朝、ベットで寝ていた私は、体が左右に揺れるのを感じ、暫くしてこれは地震だと思いました。夜は家の中で飼っている犬「ゴン」はどうしているかと思い、犬の様子を見ようと

台所の方へ行こうとしましたが、大きい箱のようなものが転んでいて邪魔になり行けないので再びベットに戻り横になり暫く眠ったようでした。後で考えると、これは寝室に置いてあった書類棚が倒れたものでした。

あたりがやや明るくなった頃、庭で「にったさん」と叫ぶ声で起きあがり、倒れた家具の間を通り家の外に出て「何ですか？」と答えると「大丈夫ですか！」との返事が返ってきたので「別に変わりありません」と答えると、その方は姿を消しました。その後で2～3人の方が開かれた門から入って来て「元気で何よりですね」と言って帰られました。後で思うと最初に声を掛けてくれた方は塀を乗り越え家の庭に入られ、帰りは門の閂をはずして外に出られたので、次から来られた方は開かれた門から来られたわけです。

さて、その時点では私の家と近所数軒だけが、地震にあっただけと感違いして、朝の食事も外に出てお店に買いに行けばよいと思い、別に特にあわてる気持ちはありませんでした。テレビやピアノ等が倒れていましたが、訪れた方がテレビを正位置に戻してくれ、それを見て始めて地震にあったのが、阪神地区の広い範囲であったことを知り吃驚しました。後で思うと別室に置いていたピアノや本棚の下敷きになっていたら命はなかったと思いますし、また地震直後、犬のいる場所へ無理して行こうとしたら、細々に割れたガラス片で足などに、かなりの傷をおったものと思い、非常に幸いであったと思います。

ここで関連して思い出すことは、私は50年前の戦争中、潜水艦の建造に従事して、いろいろの危険にあいましたが、その時は何れ日本人は皆戦死すると思っていて、あわてることはありませんでした。その死の危険の一つとして忘れないものに、自動懸吊装置の調節の失敗があります。これは潜水艦を海中のある深度に保つ装置で、この調節をやっていた時、失敗して潜水艦が大阪湾の底に沈んでしまったのです。しかし先にも述べたように何れ皆戦死すると思っていて、あわてることなく処置して浮上しました。乗っていた方々に恐怖感をもって頂くようはないと、艦長、機関長、その他数人に知らせただけでした。もちろん、家に帰っても今は無き妻、良子にも知らせませんでした。

事件が起こった時、私の頭の働きがにぶいのか、落着いているのか、分かりませんが事件が起こった時、私の行動は将来は分かりませんが、今までは良い結果をもたらしたと思っています。

〒501－31
岐阜市大洞桐ヶ丘2－15
仁田昌二方

阪神大震災に遭遇して

的場俊一（昭13卒）

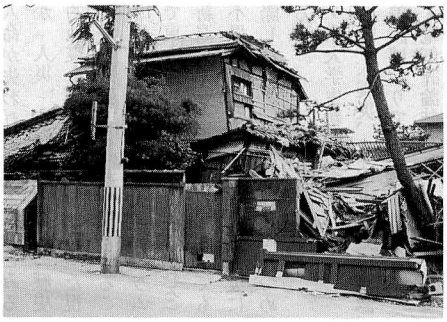
夜中眼が覚めて再び寝入った直後、突然襟元を捕まえられ、恐ろしい力と速さで身体が左右に振り回されたと感じた。と同時に頭の上から足の先まで書籍などの物体が、たたきつける様に落ちてきた。

幸い布団をかぶっていたので無事であった。それが瞬時の様にも思え、長かった様にも感じ、後で思い浮かべても時間の感覚はない。また同時に大きな音もしただろうに、はっきりした記憶はない。一体何が起こったのか分からず振動が小さくなってから地震と気付いたようだ。

地震直後は停電のため暗やみで、頼みの懐中電灯も携帯ラジオも落下物に紛れて見当たらず役に立たない。やがて夜が明け始めて外を眺めると、自宅から50米程の範囲内だけでも全壊や半壊の家屋や道路にあふれ出た崩れた石垣が目に入り、これは大変なことだと気付き、生きている、幸運だと思った。

特に空地を隔てて東西に走っている山手幹線に面したお寺の大きな本堂の入母屋造りの屋根が遠く離れた地上に落下し、その瓦線は地面に接し、破風は目の高さになっているのを見て、何とも言いようのない暗い気持ちになった。その上、近くにも亡くなられた人がおられることを聞いた。間もなく程遠くない2ヶ所で火の手が揚ったが大事に至らなかった。

長女が近くに住む親戚の安否を確かめに赴いた途中、一階の押し潰れた病院の前の路面に、毛布を被って横たわっている幾人かがおられて、中には全身を包まれておられる方もあってお気の毒で、ショックだった。と言っていた。その方は既に亡くなっておられたものと思われる。



その後、情報は何も分からず夜になってウォークマンが見付かって神戸が震央であることを知った。翌18日の深夜になって思いの外、早く電気がついた。明るさを取り戻し暖をとり得た喜こびは一しおであった。水道の復旧も早く28日には蛇口から待望の水がほと走り出た。水の無い台所・トイレの味を知らされただけに誠に有難たかった。それまではボランティアや自衛隊の給水車に助けて頂いた。電話は時々かかっては来たがコールは出来なかった。復旧したのは2月末だったと思う。ガスは当分きそうにない。

震災から幾日目だったか、梅田から西宮北口まで阪急電車が開通した。これで陸の孤島となっていた神戸も東から連絡がとれ始めた。阪急電車が西宮北口まで通じると、間もなく山手幹線はこれまでの車輌の列と異なり、その上に救援の人々の列で一杯になった。防水や防寒のジャンパーを着て、山伏の様に背に一杯詰まったリュックを背負い、その上にまで荷物を乗せ、さらに両手で食料品などを下げたボランティアの人、肉身の安否を訪ねる人、救援の人、若い人も中年の人も、切れ目のない大行列がいつまでも西へ西へと続いていっ

た。西宮北口から此処まで10km余もあり、疲労のためか皆黙々と足を運んで行かれる光景を私には聖者の姿に見え、自然と頭が下がり今でも眼底に焼き付いて忘れることが出来ない。

我が家は健在ではあったが何処とも同じくリビングや台所はガラスや陶磁器の破片が一面に床を覆い一週間程は土足のままで片付ける気にはなれなかった。

水が使えるようになって生活にも落ちつきが出来てきてから街の様子を見て回った。気の付いたことは、本通りよりも裏通りの方が概して被害が大きいこと、木造で年代の古いものが特に多く倒壊しており、二階はそのままで一階の押し潰されたものが多かったこと、立派な木造住宅でも屋根瓦が浮き上がりブルーのシートが掛けられているものがかなりあったこと、一見地震に弱そうに思えた鉄板瓦棒などのスレート屋根のプレハブ住宅が多く健在であったこと、鉄筋コンクリートの高層マンションで一見被害のなさそうなものに立入り禁止の張り紙がしてあったものが案外多かったこと、地盤のせいか建物の配置の関係か被害の大きい地域と少ない地域がばらばらに点在したことなど思ったよりも被害が大きく感じられ、罹災者の方々の心情を思うと誠にお気の毒で暗い気持ちになった。

神戸には中央図書館はじめ八つの図書館がある。気の滅入っている昨今本でも手に取って気分転換を図ろうと思い問い合せたところどの図書館も何れも被害ありで、開館の見込みつかずとのつれない返答であった。市民の最も手短かな親しみやすい文化のきづなは、今も切られたままになっている。

『災害は忘れた頃にやって来る』とは、寺田寅彦東京帝大教授の言であったと思う。思えば神戸の人々の大部分は地震は起こっても、大地震は起こることはなかろうと思っておられたに違いない。私もその一人であった。全く忘れるよりももっと次元が低かった訳で、今回は完全に不意を衝かれただけに、被害をより大きくしたことと思う。

向いの幼稚園が小さい避難所になっていて、家や家財を失われた人ともお会いしたが、皆以外なほど明るくしておられて気を強くしました。末だ避難所におられる人々が2月25日現在18万余もおられるとか。水道の復旧率85%、ガス49%とのことである。倒壊家屋のほとんどは取りこわしまでに至らず、震災直後のままの状態である。

しかし2月25日から幹線の一部で交通規制が救急主体から復旧主体に変えられて、瓦礫の運搬が強化され、いよいよ復興の槌音が鳴り響くようになった。

今や神戸人の相言葉は『頑張りましょう』である。先行き見通しのつかないような打撃を被りながら、神戸を捨てたくないと言われる人々が大部分である。明るい先見性を持った神戸人のこと、必ずや近い将来立派な新生神戸を創造されることを信じて疑わない。

神戸市民の一人として各方面から援助して頂いた尨大な義援金、直後の混乱期の市民の生活を保持して頂いた献身的な愛の手のかずかずに対し感謝の念で一杯です。

関西支部より

阪神大震災被災地、会員のみなさま方へ。

関西支部長　寿栄松憲昭

阪神大震災により被災された洛友会関西支部会員の方々に、謹んでお見舞い申し上げます。

被災地在住の会員の皆さん、同窓、友人の方々、平成7年度支部総会を5月28日(日)に開催いたします。ご案内状に記入しておりますが、会員ご家族の安否、住宅等の被害状況など情報をぜひお寄せください。総会時と洛友会会報7月号に掲載し、皆さまにお知らせします。

次の阪神大震災被災地に在住しておられる会員の一覧表をご参照の上ぜひ情報をお願いいたします。

阪神大震災被災地居住会員一覧表

平成7年3月31日現在
(表中略敬称)

No	卒業年	氏名	住所
1	昭34	水口大克而則	宝塚市仁川月見が丘
2	平2	音羽　元久行	〃　仁川宮西町
3	昭11	森　　雄	〃　仁川台
4	〃31	音居　眞幸	〃　〃
5	〃14	堀前田藤治志	〃　仁川高丸
6	〃16	東　　篤哲也	〃　〃
7	〃61	中尾　泰司	〃　仁川団地
8	〃55	原　　俊行	〃　仁川北
9	〃45	森　　邦治	〃　鹿塩
10	〃53	中井　邦治要	〃　〃
11	〃51	本吉田永一康	〃　野上
12	〃61	原田中宏郎	〃　〃
13	〃45	田林　幸平	〃　千種
14	〃60	吉山加高亀丹	〃　逆瀬台
15	〃36	田本藤岡卓	〃　〃
16	〃41	山藤忠顕格	〃　〃
17	〃50	加高雄郎	〃　〃
18	〃39	高岡卓郎	〃　光が丘
19	平2	亀山治道昭	〃　〃
20	昭42	丹藤俊夫	〃　武庫山
21	〃32	伊藤俊一	〃　〃
22	〃06	伊藤俊弘	〃　ゆずり葉台
23	〃34	松安	〃　〃
25	〃27	外　　毅	〃　桜が丘
26	〃49	桜山井勲	〃　〃
27	〃53	安藤　生	〃　長寿が丘
28	〃42修	安武達賢一	〃　川面
29	〃16	安部秀治	〃　清荒神
30	〃50	武田卓哉	〃　〃
31	〃53	弦田次郎	〃　米谷
32	〃23	小林佐久志	〃　光明町
33	〃51	米永隆	〃　高松町
34	平2	村上雅彦	〃　高司
35	昭38	吉永淳嗣	〃　安倉中
36	平2	森本健	〃　〃
37	2	末次一郎	〃　金井町
38	昭33	長崎昌司	〃　売布きよしが丘
39	〃35	皆川長也	〃　〃
40	〃5	小菅菊夫	〃　泉が丘
41	〃10	神谷　進	〃　星の荘
42	〃7	善積倹一	〃　〃
43	〃53	大垣文雄	〃　栄町
44	〃26	神田谷友清	〃　中山寺
45	平3	山本弘昭	〃　〃
46	昭49	山本博士	〃　中筋山手
47	〃61	森　　望	〃　中山台
48	〃62	栗山茂	〃　〃
49	〃62	河村和彦	〃　中山桜台
50	〃39	金岡泰宏	〃　山本中
51	〃60	川上雅昭	〃　平井
52	〃13	布村泰浩	〃　口谷東
53	〃39	片岡高示	〃　雲雀丘山手
54	〃13	辻康次郎	〃　〃
55	〃46	佐々木正	〃　〃
56	〃23	中村勤	〃　〃
57	昭45	長岡寿一郎	〃　長尾台
58	平1	高瀬弥平	宝塚市花屋敷荘園
59	昭14	ブンチュンセイ	〃　〃
60	〃55	岩田稔	〃　すみれが丘
1	〃21	野崎雅彦	〃　〃
2	〃40	室賀淳	西宮市仁川町
3	平1	伊田吹恒	〃　〃
4	昭33	田中信良	〃　〃
5	〃34	林　　彦	〃　仁川百合野町
6	平1	中村泰明	〃　段上町
7	〃	山西克也	〃　〃
8	昭41	宮崎島明	〃　〃
9	〃47	松島照雄	〃　上大市
10	〃32	藤井有蔵	〃　〃
11	〃40	林　重雄	〃　下大市西町
12	〃31	井上　饒	〃　上之町
13	〃43	難波正行	〃　高本西町
14	〃54	山添敏博	〃　神呪町
15	平1	小林慎一郎	〃　上ヶ原四番町
16	昭55	竹見政義	〃　〃
17	〃35	角野裕	〃　上ヶ原六番町
18	〃59	稲村彰一	〃　上ヶ原八番町
19	〃23	中西文毅	〃　門戸荘
20	〃18	三浦宏	〃　愛宕山
21	〃43	高木敬三	〃　甲陽園東山町
22	〃50	川原至則	〃　甲陽園山王町
23	〃25	世良茂憲	〃　〃
24	〃33	梅名喜男	〃　甲陽園本庄町
25	〃44	瀬川一	〃　甲陽町
26	〃11	内藤史	〃　柏堂町
27	〃13	那須悠一郎	〃　柏堂西町
28	平1	小林四隆	〃　西平町
29	昭8	村田佳三	〃　〃
30	〃37	西村完淳	〃　樋之池町
31	〃58	百瀬三彦	〃　〃
32	〃28	千田裕男	〃　菊谷町
33	〃15	小林幹彦	〃　南越木岩町
34	〃24	増山富宏	〃　松生町
35	〃50	志賀信	〃　美作町
36	〃12	安部川吉	〃　殿山町
37	〃45	山本隆樹	〃　〃
38	〃61	梅田咲直穂	〃　〃
39	〃52	田中高賢	〃　老松町
40	〃55	畑　　至	〃　雲井町
41	〃62	白井健一	〃　苦楽園二番町
42	〃39	西村純之	〃　苦楽園三番町
43	平3	五村康司	〃　新甲陽町
44	昭23	伊丹幸奏	〃　桜谷町
45	〃52	三成彦	〃　木津山町
46	〃29	深井雅昭	〃　満池谷町
47	〃31	法田利	〃　〃
48	〃37	船越鳥裕	〃　〃
49	〃15	梶原谷正隆	〃　清水町
50	〃41	芦谷清一	〃　大井手町
51	〃9	松本誠宏	〃　大谷町
52	〃13	陸田保	〃　〃
53	〃39	大久保	〃　〃
54	〃13	佐々木	〃　〃
55	〃46	中村	〃　〃
56	〃23	長岡寿一郎	〃　長尾台

No	卒業年	氏名	住所
52	昭42	福田豊生	西宮市大谷町
53	〃57	鷲見和工彦	〃 覆町
54	〃09	仁科充吉	〃 常磐町
55	〃23	高橋清夫	〃 〃
56	〃15	塚原岳隆	〃 平松町
57	〃57	水野俊史	〃 〃
58	〃52	由良康樹	〃 両度町
59	〃58	大植俊司	〃 〃
60	〃60	吉永英一	〃 〃
61	〃28	大和敏勝	〃 天道町
62	〃41	内田貞彦	〃 二見町
63	〃36	神原裕夫	〃 甲子園口北町
64	〃60	竹井堅正	〃 甲風園
65	〃49	岩井博行	〃 一ヶ谷町
66	〃62	橋本正則	〃 丸橋町
67	〃38	羽根田博	〃 甲子園口
68	〃41	大谷謙正	〃 〃
69	〃8	林合正治	〃 〃
70	〃44	河合一夫	〃 〃
71	〃45	針井孝洋	〃 〃
72	〃14	山木一尚	〃 上甲子園
73	〃50	有亀寛	〃 津門西口町
74	大13	野本彦	〃 川東町
75	昭32	阪上一助	〃 堀切町
76	〃35	岡川恭彦	〃 熊野町
77	〃29	針田一美	〃 平木町
78	〃36	山谷俊雄	〃 高塚町
79	〃46	有本義彦	〃 〃
80	〃54	野木和彦	〃 泉町
81	〃40	阪口正一	〃 深谷町
82	〃30	山田浩夫	〃 宝生ヶ丘
83	〃54	吹谷基温	〃 前浜町
84	〃57	荻原直司	〃 すみれ台
85	平03	和田啓人	〃 上鳶原町
86	昭62	横田正右	〃 甲子園三番町
87	〃50	竹下圭章	〃 〃
88	〃60	尾崎哲之	〃 甲子園町
89	〃50	上田英哉	〃 小松町
1	〃47	森川雅元	
2	〃48	安居院憲昭	芦屋市翠ヶ丘町
3	〃18	安藤晴夫	〃 〃
4	〃47	角田寛一	〃 親王塚町
5	〃54	角田純一	〃 〃
6	講大12	塚部本仁	〃 〃
7	昭40	瀧田重之	〃 大原町
8	〃23	分田宮美	〃 船戸町
9	〃25	上米良宮実	〃 東山町
10	〃55	中島田夫	〃 山手町
11	〃29	倉田政淳	〃 〃
12	〃23	渡辺野彦	〃 岩園町
13	〃48	河野義博	〃 川西町
14	〃60	林秀樹	〃 三条町
15	〃10	牧田裕行	〃 東芦屋町
16	〃29	北村芳雄	〃 前田町
17	〃36	間瀬光郎	〃 平田町
18	〃14	横山弘道	〃 平田町
19	〃60	長坂孝一	〃 伊勢町
20	〃7	門間明	〃 緑町
1	〃38	織田寛	〃 浜町
2	〃45	村上治	神戸市東灘区森北町
3	〃53	吉田進也	〃 〃
4	〃42	成田民修	〃 〃
5	〃41	森下弘誠	〃 森南町
6	〃41	高橋重和	〃 岡本
		松本翼	〃 〃

No	卒業年	氏名	住所
7	昭38	野田伸雄	神戸市東灘区森北町
8	〃24	永見晴彦	〃 〃
9	〃33	潮崎安弘	〃 〃
10	〃17	巳斐健三郎	〃 〃
11	〃44	井上徹	〃 〃
12	〃46	和田道司	〃 〃
13	〃54	田代浩夫	〃 〃
14	〃16	内山勝美	〃 西岡本
15	〃27	田村崎隆一	〃 〃
16	平4	尾崎隆英	〃 〃
17	昭47	二神勝功	〃 田中町
18	〃55	岡本彦	〃 〃
19	〃19	田代笠任	〃 〃
20	〃14	絹片隆三	〃 甲南町
21	〃50	岡崎徹	〃 〃
22	〃56	石崎俊雄	〃 〃
23	〃28	阪上二宏	〃 住吉東町
24	〃27	堀謙二太郎	〃 〃
25	〃21	高木益郎	〃 住吉本町
26	〃46	徳弘仁	〃 〃
27	〃48	仙波島洋	〃 住吉宮町
28	平1	加島秀彦	〃 住吉南町
29	昭22	高月井一	〃 住吉山手
30	〃29	片井正男	〃 〃
31	〃18	伊原松太郎	〃 鴨子ヶ原
32	〃43	山田忠利	〃 〃
33	平3	池上史彦	〃 〃
34	昭26	岡林茂樹	〃 御影山手
35	〃47	川崎幡孝司	〃 〃
36	〃59	岸本圭一	〃 〃
37	〃13	的村津俊一	〃 御影町郡家
38	〃53	村名村恒男	〃 御影石町
39	平2	嶋尾真味	〃 御影中町
40	〃4	中下梨治	〃 〃
41	昭56	村上孝夫	〃 北青木
42	〃61	野崎康	〃 〃
1	〃24	生駒銕郎	神戸市灘区五毛通
2	〃35	新田東晴平	〃 高尾通
3	〃22	若林晴文	〃 城の下通
4	〃29	桑原禎司	〃 桜ヶ丘町
5	〃51	松田庄敏彦	〃 赤松町
6	〃52	黒崎敏孝	〃 高羽町
7	平4	古見積治	〃 〃
8	昭56	安二津聡	〃 桜ヶ丘町
9	平1	平津智幸	〃 新庄家南町
10	昭52	平松新	〃 篠原中町
1	〃40	流郷忠彦	神戸市中央区葺合町蝉山
2	平1	二谷隆郎	〃 山本通
3	昭53	永尾敏繁	神戸市中央区港島中町
4	〃56	安富文夫	〃 東川崎町
1	〃15	吉田直浩	神戸市兵庫区雪御所町
2	〃29	岩井勵	〃 荒田町
3	〃9	甫木元春繁	〃 〃
4	昭7	小巻賢治一	〃 矢部町
5	平2	渋木内俊	〃 梅元町
6	〃5	河内俊和	〃 羽坂通
1	昭17	足立正次	神戸市長田区上池田
2	〃45	今井健雄	〃 大塚町
3	〃53	市場稔	〃 西山町
4	〃57	木嶋淳行	〃 長尾町
5	〃59	松本善市	〃 檜川町
6	〃44修	堀忠	〃 林山町

関西洛友会第63回ゴルフ競技会の御案内

恒例により第63回ゴルフ競技会を開催いたします。多数の御参加をお願いします。

記

一、開催日　平成7年5月7日(日)
二、場　所　武庫ノ台ゴルフコース（JR道場駅下車）
三、スタート　8時36分～(10組)
四、競技方法　18ホールストロークプレー
五、会　費　2万3千円（当日御持参下さい）
六、申込み　4月5日、幹事まで
幹事、森本浩志(40)米満英二(63)
TEL 06－441－8821
関西電力内線3524

ゴルフ競技会の運営について

次回より次のルールに従って、ゴルフ競技会の運営を行っていきます。

1、会員は通常会員とシニア会員の2種類とし、シニア会員は65才以上とする。
2、ハンディキャップは65才で＋2、70才で＋3、75才で＋4、80才で＋6、85才以上は特別に考慮する。
3、優勝カップは「支部長杯」とし、通常会員用とシニア会員用の2種類を設ける。
4、「支部長杯」の取り切り戦は3年毎に行う。
なお、次回のゴルフ競技会(63回)で56～62回の優勝者による取り切り戦を行う予定になっております。有資格者の方頑張ってください。

次回(64回)競技会は、10月7日(土)の予定です。

以上。

東京支部講読会報告

東京支部では恒例の講読会を、2月10日(金)に開催いたしました。講師にはMPEG2の規格を決める際に委員長として活躍された、NTT法人営業部システムサービス部開発部長　安田浩氏をお招きして、「マルチメディアとは」と題して、1時間半にわたり講演していただきました。マルチメディアというホットなテーマでもあり、平日にもかかわらず、30名のかたが参加されました。

講演内容は、マルチメディアの定義から始まり、各情報の情報量、画像情報の圧縮により経済的に画像情報が扱える事、マルチメディアサービスの形態と応用例、ネットワークへの展開、高速伝送とATM、インターネット、企業通信システム、NTTの今後のマルチメディア推進プラン、等について、OHPとビデオを用いてわかりやすく、説明して頂きました。

講演会の後、夕食をとりながらの懇談会を行ないました。懇談会では、技術的な質問から、情報化社会における、企業の役割や先進国の役割まで話しがひろがり、予定時間をオーバーして話題が尽きませんでした。ぱくぜんとしていたマルチメディアについて、新たな知見が広がり、非常に有意義な講読会でした。なお、東京支部では4月にも2回目の講読会を行なう予定にしております。

（昭50年卒総務幹事横川文彦記）

東京支部ゴルフ会報告

幹事　舟田正男（24年卒）

平成6年のゴルフ会は名門小金井カントリークラブで3回開催しました。40名で予約しましたが、いづれの回も40名を満たせませんでした。参加者の平均年齢は若干若くなって65歳前後です。

尚、ゴルフ会の案内は昭和8年卒から昭和50年卒の参加希望の方に致しています。

第72回では、7年振りにハンディの全面的な見直しを行いました。成績は次の通りです。

第73回で田中信高（8年卒）様が85歳という高齢にもかかわらず、グロス95（平均110.7）、ネット71の好成績で優勝されました。

次回第74回は平成7年4月14日（金）相模原ゴルフクラブで開催します。多数のご参加を歓迎しております。

連絡先TEL045－891－一七一一

舟田宛

開催回	第73回	第72回	第71回
開催日	6.9.27	6.6.10	6.3.23
場所	小金井CC	小金井CC	小金井CC
参加者数	39人	33人	35人
優勝	田中(8)	近藤(40)	大成(35)
2位	甲斐(16)	立川(26)	内藤(40)
3位	河原(23)	飯尾(31)	甲斐(16)
4位	北野(24)	太田(17)	村井(22)
5位	西岡(25)	佐藤(40)	北村(35)
7位	室賀(27)	――	――
10位	岡本(27)	古川(17)	土方(17)
15位	土方(17)	山村(15)	北爪(15)
20位	藤原(21)	園山(22)	中島(22)
25位	穂積(31)	甲斐(25)	都木(23)
30位	河野(9)	金田(21)	河野(9)
35位	長谷川(19)	――	――
B・B賞	青木(21)	岸本(33)	石井(23)
当日賞	舟田(24)	土方(17)	山村(15)
敢闘賞	高木(10)	小西(33)	――
特別賞	――	――	筑木(14)

昭和24年卒 45周年クラス会

平成6年11月13、14日、京都グランドホテルにおいて、45周年クラス会を開催しました。

大谷、近藤、池上、竹屋の諸先生をはじめ、計46名の方々が御参加され大変盛大な集会となりました。

病気中でやむを得ず欠席の方、再三の手術直後で杖を付いて出席された江口潤君、数年ぶりに顔を見せた井土守君など、故障の方もさすがに多くございましたが、45年の年輪を物語る、懐かしいお顔にお会いでき嬉しく思いました。

冒頭に森井清二君より「京都と鴨川」と題して藤原京以来の遷都の歴史について興味深いお話しがありました。

翌日は映画村でチャンバラやお白州を見物、トロッコ列車での保津川紅葉狩り、嵯峨野散策を久し振りに楽しみました。

参加者（太田實君撮影、写真の順序による、敬称略）

いずれも向って左端より

前より第一列目

飯田義直、岡田栄、北野豊、井土守、松山敏夫、関章良、吉田祝雄、森井清二、岡崎清、

前より第二列目

浜田浩、野村精二、江口潤、池上先生、近藤先生、大谷先生、竹屋先生、故加藤圭司夫人、中野稔夫人、森井清二夫人、生駒銕郎、

前より第三列目

小原猛、中野稔、岡田栄夫人、飯田義直夫人、生駒銕郎夫人、浜田浩夫人、関章良夫人、故佐々木喜一夫人、野村精二夫人、安房淳夫夫人、西田栄一夫人、伊藤薫夫人、太田實、

前より第四列目、

西田栄一、伊藤薫、安房淳夫、永見勝彦、近江昌二、舟田正男、松村長延、川口章、林正之、岩村衛、太田弘、佐野喜蔵、門脇誉雄、

（生駒銕郎記）

昭和39年卒業 30周年記念会

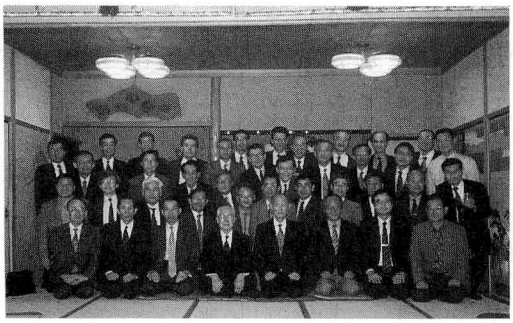
我々昭和39年に電気・電子工学科学部を卒業してから今年は30周年に当り、平成6年11月12日に記念同期会を開催した。今年は平安京建都千二百年ということもあり、昼間は各自各種の催しにでも行ってもらうこととし、宴会を歴史に関わる場所から選択。桂小五郎・幾松寅居の場所であった木屋町御池上ルの「幾松」で、当時主任の大谷・池上名誉教授・当時お世話になって今現役の西川工学部長・長尾教授をお迎えして開催した。卒業生39名を含めて出席者43名。九州からも大田裕資、大内一紀君が駆け付けてくれたが、前回同様ドイツのボンから態々ヘン・フ・チョン君が参加してくれた。日本語も教えた卒業生が沢山日本に来ているという。

「幾松」周辺の歴史的話を聞き、幾松が桂小五郎をその中に隠し近藤勇にしらを切ったという長櫃、鴨河原への抜け道など見せてもらって後宴会。約半数近くが最初の

職場を離れ、残りの者も選択の線上にある状況、かなりの者が子離れの最中とて、一人一人の近況を聞いていると何時終わるか分からないということで、個人の近況報告はやめたが、大いに盛り上がり、幹事も折角準備した寄せ書きを忘れる始末でした。

第二部は京都駅近くの京都グランドホテルのスカイラウンジで列車の便に合わせて和気合い合いの懇談、次回5年後は関東幹事でやろうということになった。楽しい一日であった。

幹事　英保　茂
川中義郎
砂原洋一
留岡　寛記



洛友会員 新名簿発刊について

平成八年用～新名簿が平成7年11月下旬に発行されます。例年の如く名簿送付対象者は、平成6年度会費納入者とします。

名簿発送を11月度とする関係上、記載事項の訂正締切期限は7年9月9日とします。会員各位には現名簿をチェックし、変更の方はこの期限までに現名簿添付の基本調査票(葉書)、又は事務局まで電話でご連絡下さい。特に勤務先所属部課名等変わっておられる方は連絡願います。なほ既に連絡のあった方は訂正済みです。

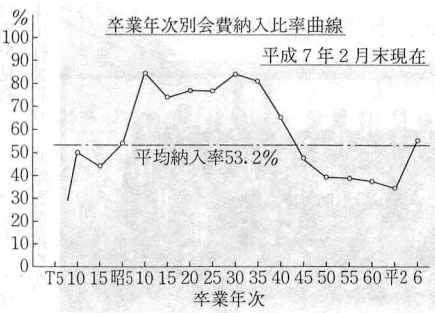
以上正確な名簿作成のため、会員各位のご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

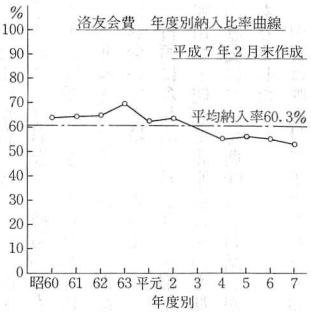
卒業年次別 会費納入状況について

会員の皆さんのご協力で平成6年度の会計業務も完了しました。

会費納入対象者数(A)五八三一名(平成6年卒まで)で、納入者総数(B)三一〇〇名で納入率(B)／(A)は五三・二%。平成5年度(前年度)に比較して若干下がり低調です。グラフ参照ください。10年間で低下傾向です。また平成6年度の会費納入状況は昭和45年以降の卒業生の納入協力が不足しています。支部活動費にも影響しますので今年も会費納入方何卒よろしくお願い申し上げます。

(本部事務局)





編集後記

阪神大震災により被災された会員の方々に心からお見舞い申し上げます。

今年は阪神大震災をはじめ、地下鉄サリン事件、オウム真理教強制捜査、警察庁長官狙撃事件と物騒な世の中になりました。その上春4月というのに、いきなり円続騰、株急落と相も変わらぬ暗いニュースばかりです。しかし季節は春だより卒業、入学、入社などなど、いろんなことが芽生えスタートする春です。早く楽しい明かるい市場になることを希望するものです。

今年の洛友会**本部総会は6月3日(土)**東京目黒の**八芳園で東京支部と合同で開催**されます(詳細は前記参照方)会員の皆様、東京支部会員だけでなく、全国からぜひ出席方お願い申しあげます。また各地区の支部総会は、

5月19日(金)　九州支部総会
5月26日(金)　中国支部総会
5月26日(金)　四国支部総会
5月28日(日)　関西支部総会
6月10日(土)　北陸支部総会
6月24日(土)　中部支部総会

右記のように懇親会を兼ねて計画されています。それぞれご案内がありますのでぜひ出席賜りますようお願い申し上げます。

次に本年度は会員新名簿(平成八、九年用)を発行します。12月上旬には発行いたしたく、ついては次の件ぜひご協力賜りますようお願い致します。

○広告掲載の依頼

会員企業の広告を各支部役員を通して依頼されます。各社とも前例通りお申込みをお願いします。

○会員の変動は早く通知を！

住所　勤務先所属課名役職が変られた会員は早く通知をお願いします。

期限　8月20日まで

平成7年度も洛友会にご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(事務局長　矢木原邦雄)

訃報

講大7　中野甲太郎　6・12
講大12　谷口久一　7・3・15
昭6　槇田準二郎　6・10・16
講昭6　藤井和一　5・11・18
昭7　北原　猛　6・4・24
昭8　伊藤　努　6・5・1
昭8　岡村善勝　4・9・26
昭9　喜田村善一　6
昭10　北村芳雄　7・1・18
昭20　小林正明　7・1・7
昭29　高橋　宏　7・3・20
昭45　長島　清　6・1・20

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。